

特別企画

Special Edition

歯科のこの100年の歩みと今後の展望 —ICD100周年に向けて—（Ⅱ）

Progress in Dentistry During the Past 100 years and Future Prospects —For the 100th Anniversary of the ICD—（Ⅱ）

企画要旨

国際歯科学士会（International College of Dentists 以下ICD）は、今年2020年設立100周年を迎えました。

設立の発起人は、当時の東京歯科大学学長 奥村鶴吉先生と米国シカゴ大学学長であり、シカゴ歯科医師会会長ともなって活躍され、その後永年フィリピンでの歯科医学教育に携われたDr.Louis Ottofy先生です。

本年度はICD国際会長に本学会のフェローで国際理事の愛知学院大学歯学部名誉教授 千田 彰先生が就任されました。

当初、本年11月に名古屋で100周年記念祝賀会が開催される予定でしたが、世界的な新型コロナウイルス感染症蔓延により、来年9月22日に開催が延期されることとなりました。

本企画は、ICD100周年を迎えて永年歯科医学の現場において専門的なお立場で、教育・研究・診療に精励されてきた著名な先生方に昨年に引き続き、第二段として4名の先生に原稿執筆を頂く運びとなりました。

主な内容とポイント

■ 歯科矯正学 黎明期からこの100年の歩み —ICD100周年に向けて—
北海道大学 名誉教授 飯田順一郎

■ 日本における“口腔外科”の歴史
東京歯科大学 名誉教授 野間 弘康

■ 咀嚼・咬合から想像する健康長寿へのたゆまぬ挑戦
—歯科補綴学・補綴歯科治療の歩みと今後の展望—
東北歯科大学 大学院歯学研究科 教授 佐々木啓一

■ インプラントの100年とオッセオインテグレーションの進化
広島大学 名誉教授 赤川安正